

そだね～！カー娘に見る つながることの素晴らしさ



このことをネタにする人はこの時期多いだろうなと思いながらあえて書いてしまう、平凡な話です。

自国開催だった1998年長野オリンピックの10個を上回る13個のメダルを獲得し、様々な話題に湧いた今年の冬季五輪。みなさんはどの種目に興味を持ったり、感動したりされましたか？フィギアスケートもちろん、緊張とプレッシャーをはね除けながら空を飛んでいるスキージャンプ、スピードスケートの様々な競技、パシュートやショートトラックではその駆け引き

もおもしろく、見てるとワクワクするものばかりで、政治的な駆け引きをしているあちらの方々には、「恥ずべきだな。」という思いを強くしました。

私もいろいろな競技を見ていたのですが、中でもおもしろく、心が温かくなったり、選手と共感できたり、感動できたりしたのがカーリング女子です。あの笑顔と明るさが日本中をとりこにしたのは言うまでもありません。私も例に違わず、彼女たちのファンになった一人です。「藤澤選手のおでこがいいな～」とか「あの選手見方によっては〇〇さんに似てるな～」とか。自分でおっさんだな～(*^_^*)と思います。しかし、そんな容姿だけでなく、見ているとこのカー娘たちに見習うことは多い。

まずは、その潔さ。ご存じの方も多いと思いますが、カーリングは審判が表に出てこないセルフジャッジの競技です。最終エンドの自分たちの攻撃を前に負けが濃厚となれば、相手に握手を求めて敗戦が決まります。何度となく今回の平昌五輪でも見られた場面でした。負けた相手に握手を求める彼女たちの姿は、どの国にも引けをとらないほど清々しいものでした。

チームの仲のよさも見ている者に心地よい時間を与えてくれました。「そだね～」に代表されるコミュニケーションのよさ、個々のつながりのよさが銅メダルという結果につながったんだと思います。他の競技では、競技中の会話をテレビで聞くなんていうこ

とはありませんから、この点もこの競技の魅力なのでしょう。予選中インターネットのニュースを見ていると、5エンドを終わってからの7分間のハーフタイム（作戦タイムとおやつタイムのあれです）をカットし、羽生選手のインタビューを流したNHKに非難が殺到。「羽生選手のインタビューはいつでも見られる。」「ハーフタイムにどんな話をしているか見たい。」「どんなおやつ食べているか見たい。」などの意見が寄せられたため、天下のNHKもハーフタイムをオンエアすることになりました。それほど、彼女たちの会話は見ている者に好印象を与えたということでしょう。

そして、このような潔さ、チームワークのよさをひっくりめた、彼女たちの明るさとポジティブな態度。

非常に見習うべきものが多いと感じた彼女たちの姿です。クラスがこんなだったら、学校がこんな笑顔にあふれていたら、なんて素晴らしいんだろうと思わざるを得ませんでした。

五輪の中継をご家庭で観戦しながら、お子さんたちとどんな話をなさいましたか？間もなく平昌パラリンピックも始まります。日本を代表して、自分たちの青春をかけて（中には青春以上のすごい選手もいますが）競技に臨んでいる彼らの姿には、子どもたちに感じさせたものがいっぱいあるように思います。



いよいよ卒業シーズン

1日の北松西校の卒業式を皮切りに、いよいよ3月、卒業シーズンです。北松西校の卒業式も凜とした態度で、歌声も大きく素晴らしいものでした。少ない人数であれだけの歌声が出ている高校もそうはなかならうと思います。

さて、小学校でも先日より卒業式の練習を始めました。写真は1～5年生の式歌の練習です。指導は宮崎教諭。高校生に負けないぐらいいい声が出ていました。でも、こちらはいわゆる「かすみ草」。メインのバラやユリは6年生です。主役の6年生が一番光ってくれる卒業式に向けて猛ダッシュです。

また、今年は主役を光らせるために「卒業式改革」も担任を中心にやってくれています。内容は内緒です。どうぞ期待！

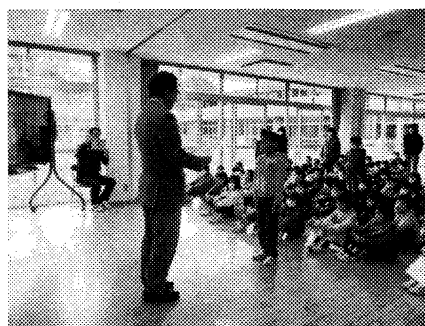


子ども県展に多くの子が入賞

毎年、県内各学校からの応募される「子ども県展」に多くの子が入賞しました。この「子ども県展」は、絵画の部と版画の部からなる長崎県のコンクールです。

特 選	
5年	大久保 直季 (版画)

入 選	
1年	濱田 乃愛 (絵画) 小崎 楓花 (絵画) 岩永 大空 (絵画)
2年	小崎 愛音 (絵画) 濱田 舞桜 (絵画)
3年	濱田 凧紗 (絵画・版画)
5年	北村 和月 (版画) 遠山 琉伊 (絵画) 松田 すぐり (絵画・版画)
6年	岩坪 果恋 (絵画・版画) 橋元 竜次 (版画)



学校賞 (優良校)
小値賀小学校大島分校

大島分校は5名全員が入賞したため、学校賞をいただきました。

下の写真は、大島分校の様子をネット回線で小値賀小本校の多目的ルーム（朝会の場所）で投影。大島分校では、小値賀小本校の朝会の様子を投影し、お互いの画像を見ながら表彰や全校合唱をしている様子です。



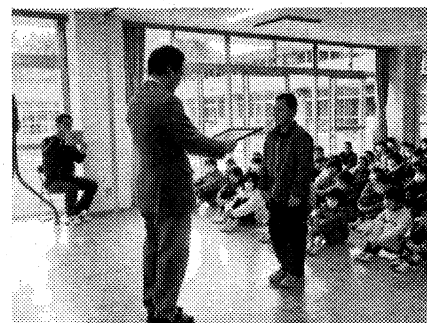
大島分校では自分たちのがんばりを、本校でも認めてもらったことで、やる気がぐんとアップした子どもたちです。また、小値賀小本校の子どもたちも、分校の5人のがんばりを素直に喜ぶということで、他人を認めるという大切な心を養うことができます。

ごはん・お米とわたし

「ごはん・お米とわたし」コンクール
図画部門・入選

5年 田川 翔明

こちらは夏休みの作品として応募があった「ごはん・お米とわたし」コンクールです。田川君が入賞し、表彰されました。



マラソンマップ完走者

ロードレースの練習とともに始めたマラソンマップの完走者です。

(マップ1枚は30km分) 1月にも表彰した完走者にまた多くの子がありました。



3年	田中 瑠海 (マラソンマップ2枚目)
4年	角永 佑太 田中 海音 (マラソンマップ2枚目)
6年	森 拓己 橋元 竜次 濱田 朔羅 川村 聖斗 山田 優 橋本 萌愛 佐野 美海 濱田 愛羅 岩坪 果恋 渡部 愛加 伊藤 莉子

3・11に向けて

ご存じのように3月11日は東日本大震災の日です。平成23年に起こった我が国未曾有の災害です。毎年、この時期には子どもたちにこのことを伝えるべきだと思い、映像や写真を見ながら、朝会で話します。今日3月8日の朝会では、当時のNHKのニュース映像を見ながら、この日にどんなことが起こったのかを振り返りました。



気仙沼市の皆川中学校では震災翌日に卒業式を控えていました。後十数時間で57名全員が卒業するはずで、教室で卒業アルバムを渡されたと聞きます。その直後、この震災のため3名の犠牲者を出すことになり、全員での卒業は永遠に叶わないものとなってしまいました。今日は10日遅れのこの中学校で行われた卒業式の映像を子どもたちと見ました。卒業生代表の男子生徒が涙をこらえながら語る言葉や表情、低学年の子どもたちにはちょっと難しい言葉もあったとは思いますが、家族や友を亡くすこと悲しみ、命の大切さ、生きることの意味を何となく感じてくれたらと思います。この卒業生代表の生徒は、次の言葉であいさつを締めくくります。

「時計の針は14:46を指したままです。でも、時は確実に流れています。生かされたものとして顔を上げ、常に思いやりの心を持ち、清く、正しく、たくましく生きていかなければなりません。命の重さを知るには大きすぎる代償でした。しかし、苦境にあっても、天を恨まず、運命に耐え、助け合って生きていくことがこれからの私たちの使命です。私たちは今それぞれの新しい人生の一步を踏み出します。」

離れてはいても、我が国で起こった大災害。私たちは何を学ぶべきか考える日が今年もやってきます。